



地域の先生と山口赤十字病院をつなぐ

やまぐちcross

第32号
2020.9・10

乳腺外科について

2020年4月より山口赤十字病院に赴任しました乳腺外科の服部正見です。
前任の横畑医師が10年前に乳腺外科専門外来を立ち上げた翌年に、私は1年間
外科レジデントとして乳癌診療の多くを学ばせていただきました。その後、様々な病院
で研鑽を積み、再び山口赤十字病院で働けることを大変嬉しく思っております。

現在は、乳腺専門外来を服部(月・金曜日)、横畑医師(火曜日午前のみ)で行って
おります。他の曜日は経験豊富な外科医師の力を借りながら診療を行っております。

現在、山口市内だけでなく、萩市、防府市、美祢市、津和野町など遠方からも
多くの患者さんをご紹介いただいております。心より感謝申し上げます。



■ 乳腺外科とは ■

乳腺外科では、乳癌手術だけでなく、乳癌、乳癌疑いの患者さんに対し、検診、
診断、治療、緩和に至るまでを担当します。そのためには放射線科(マンモグラフィー、
CT、MRI、リニアック)、検査部(乳腺エコー、病理)、産婦人科(遺伝性乳がん
卵巣がん症候群など)、外来化学療法室、医療社会事業部(就労支援、介護保険の
相談など)、緩和ケア内科(緩和医療)と連携をしながら、**チーム医療で診療**にあたって
おります。

■ 乳癌について ■

女性の死亡原因の第1位は悪性新生物です(Figure1)。
現在、生涯罹患リスクは9%で、11人にひとりの女性が
生涯で乳がんにかかるとされています。

乳がんになりやすい年齢をみると、他の癌腫とは異なり、
30歳代後半から増えてきて、40歳代後半と60歳代
前半にピークがあります(Figure2)。

【今回の担当医師】

乳腺外科 部長

服部 正見 (はっとり まさみ)

【専 門】 乳腺外科

一般・消化器外科

【資 格】

日本外科学会；専門医

日本乳癌学会；認定医

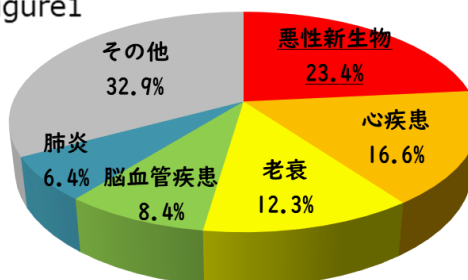
日本乳がん検診精度管理中央機構

；マンモグラフィー読影医、
超音波検査実施・判定医

日本がん治療認定医機構

；がん治療認定医

Figure1



罹患率は第1位ですが、死亡率は第5位であり、比較的予後良好な癌です(Figure3)。早期に見つければ生存率は高く、治癒は可能ですので、早期発見、早期治療が大切です。



Figure3 女性のがん(死亡数・罹患数)の多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
死亡数 (2018年)	大腸	肺	膵臓	胃	乳房
罹患数 (2017年)	乳房	大腸	肺	胃	子宮

■ 乳がん検診 ■

マンモグラフィー検診は死亡率減少効果が証明されている唯一の乳癌検診です。厚生労働省では乳がん検診の方法として40歳以上を対象として**2年に一度マンモグラフィ検診を推奨**しています。日本は残念ながら検診受診率が非常に低く、全国平均で47%と報告されています。山口県は30%後半で全国最下位です。50%以上の受診率で死亡率減少効果が期待できるため、40歳になったら乳がん検診を定期的に受けることが非常に重要です。

一方、乳がんの発見契機は乳がん学会の報告によると55%が自己発見ですので、自己触診もとても大切です。

■ 当院での検診検査の紹介 ■

○マンモグラフィー

マンモグラフィーは、乳房のレントゲンのことです。**当院ではデジタルトモシンセシス(3D画像)も行っております。**

乳房を挟んで撮影するため、痛みを伴うこともあります。乳房を**しっかり薄く挟む**ことにより、しこりがあった場合は**診断しやすくなり、被ばく量が減る**ため、はさみ具合がとても重要です。はさみ具合が緩い場合などは、しこりがなくてもしこりがあるように見えることがあるため、検診要精査で受診された場合はマンモグラフィーをすでにお撮りになっていても当院で再度検査をさせていただきます。

また、石灰化はマンモグラフィーでよく分かります。石灰化の多くは癌ではありませんが、一部の症例で早期乳癌が見つかる場合もあります。

○乳腺超音波検査

超音波検査でも乳房にしこりがないかどうかを調べます。

若い女性は乳腺組織が豊富なため(高濃度乳腺)、しこりがあってもマンモグラフィーでは見つけにくい場合があります(マンモグラフィーではしこりも乳腺組織も白く映り、しこりが隠れてしまいます)。超音波検査はこのような方に特に有用だといわれています。この検査は痛くありませんし、被ばくもありません。(乳房超音波検診に関しては、40歳代の女性に対してマンモグラフィーに超音波検査を追加することでがん発見率が上昇したことが、日本で行われた臨床研究によって証明されています。)

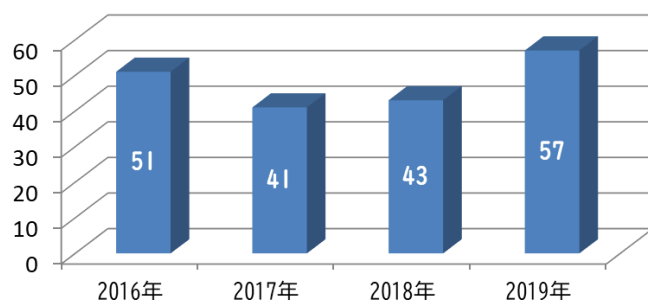
当院では、全例女性技師が担当しております。女性ならではの気配りで、安心して検査を受けていただけるよう努めております。(後述の「放射線科部の紹介」ページをご参照ください。)

■乳癌治療について■

当院での乳癌手術件数は、ここ数年40～50例/年で推移しています（Figure4）。

また、乳癌治療に対しては、手術のみではなく、『乳癌診療ガイドライン』に準拠し、さらに一部山口県の実情に即した放射線療法、化学療法を組み合わせた集学的治療を行っており、乳癌の10年生存率も良好な成績となっております。

Figure4 乳がん手術件数



■最後に■

開業医の先生方には、日頃より患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございます。

今後も先生方や患者さんのご期待に添えるように精進いたしますので、今後ともご紹介よろしくお願いたします。

参考サイト 国立がん研究センターがん情報サービス <https://ganjoho.jp/public/index.html>

放射線科部のご紹介

当院では一般撮影やCT検査、MRI検査など様々な画像診断のための検査を行っています。私たち診療放射線技師はそれらの検査において診断に有用な画像を提供できるよう日々業務に励んでいます。

放射線を扱うことや大型の装置を操作することから診療放射線技師は男性のイメージを持たれがちですが、最近ではマンモグラフィーをはじめ各分野で活躍する女性技師が増えてきています。現在当院には5名の女性技師が働いており、患者さんがほとんど女性であるマンモグラフィー検査はすべて女性技師が担当しています。

マンモグラフィー検査ではポジショニングの際に技師が乳房に直接触れる必要があります。また、個人差はあるものの、圧迫による痛みを伴う検査となる為、同じ女性としての目線を生かしより苦痛の少ない検査となるよう心掛けています。



私達が検査を担当しています!!

また、マンモグラフィー検査に限らずCT検査やMRI検査など多くのモダリティで女性技師が活躍しており、検査の際には介助が必要な方の着替えを手伝うことも多くあります。患者さんが女性の場合でも安心して検査を受けて頂けるよう、このような場面でも女性技師が対応しています。

これからも皆様に安心して検査を受けていただけるよう努めてまいります。

医師人事異動のお知らせ

《 採用 》

産婦人科 医師 曳野 耕平（9月1日付）

産婦人科 副部長 南 星旭（10月1日付）

《 退職 》

産婦人科 医師 元村 衣里（8月31日付）

耳鼻咽喉科 医師 高良 佳江（9月30日付）

10月は乳がん月間です

乳がん検診を受けましょう



日本では年間約1万人の方が乳がんによって命を落としています。
乳がんは早期発見で約90%の人が治ると言われています。
あなた自身と大切な家族のために乳がん検診を受けましょう。

《申込～検診・診察のながれ》

検診の
予約申込



検診



検診結果
送付



必要に応じて

外来
受診



《山口赤十字病院では…》



1 乳腺専門医の診察と女性技師による検査

当院は乳腺外科があり、専門医2名が在籍しています。

また、検査は**女性の診療放射線技師が担当**し、女性ならではの
気配りを心掛け、患者さんに安心して検査を受けていただけるよう
努めています。（※乳房視触診は原則行っておりません。）

検査は私たちが
担当します!!



2 マンモグラフィ検診施設画像認定 (デジタルA認定)

画質・品質管理・被ばく線量が基準値を満たし、乳がん検診の質の高さを
認められた施設だけに与えられるもので、当院は2020年4月に認定を受けて
います。



3 3D画像でもっと詳しく オプション検査「トモシンセシス」

従来のマンモグラフィ撮影に加え、角度を変えて複数方向から
撮影し、断層データ(3Dデータ)を作成できる技術です。従来の
2D撮影よりも明確に見えるため、病変を見つけやすくなります。

(※マンモグラフィーに付随する検査のため、単独では実施できません。)

